

## 2014-Spring 神戸大学 [大学院] 授業シラバス案

授業科目名	言語教育科学論特殊講義	曜日・時限	木曜日・2時限
授業担当者	横川 博一	教室	D601
教員連絡先	研究室：国文（鶴甲第一）キャンパスD棟604 電子メール：yokokawa@kobe-u.ac.jp ホームページ： <a href="http://www.hyokokawa-lab.com/">http://www.hyokokawa-lab.com/</a>		
<b>科目の概要</b>  <b>言語教育科学入門</b>  言語教育研究に対する心理言語学的方法論について学び、授業実践と基礎研究を視野に入れた研究能力を育成することを主たる目標とする。言語の理解・産出といった人間の言語情報処理の認知的メカニズムを解明するための心理言語学的方法論について理解を深め、第1言語および第2言語における聞く、読む、話す、書くことおよび語彙の学習と教授への応用可能性について考察する。  今年度は、「外国語運用能力の熟達化に伴う言語情報処理の自動プロセスの解明」をテーマとし、語彙の処理と学習、文理解、文産出、外国語の学習の4つの角度から理解を深めたい。			
<b>授業の計画と内容</b>  授業は、指定教科書のリーディングにもとづき、受講生によるディスカッションおよび教員による講義を中心に進めます。授業で扱うテーマなどは「授業計画」を参照のこと。  扱う分野は、語彙の処理と学習、文理解、文産出、外国語の学習の4つである。それぞれ「各論」について指定教科書をあらかじめ読み、授業では受講者全員で討論する。また、授業では、基盤となる知識の獲得と涵養にも努め、発展的な内容についても解説を加える。			
教科書	横川博一・定藤規弘・吉田晴世（編）『外国語運用能力はいかに熟達化するか：言語情報処理の自動化プロセスを探る』松柏社		
参考書	授業内外で適宜、紹介・指示する。		
<b>成績評価の方法</b>  次の点にもとづき、総合的に評価する。 ①出席（10%） ②タスク・活動（50%）：実習レポート、課題シート、授業・活動への積極的な参加の程度により評価する。③レポート（40%）：プロジェクト研究の成果をレポートにまとめて提出すること。			

授業計画(案) ver.01

回	月/日	授 業 内 容
1	4/10	<b>Introduction</b> 外国語運用能力の熟達化に伴う言語情報処理の自動化プロセスの解明 ー授業実践と基礎研究のインターアクションー(1)
2	4/17	外国語運用能力の熟達化に伴う言語情報処理の自動化プロセスの解明 ー授業実践と基礎研究のインターアクションー(2)
3	4/24	<b>語彙の処理と学習</b> 第8章 シャドーイング訓練によって日本語学習者の発音はどう変化するか
4	5/1	第1章 音声による模倣・復唱は未知単語の学習の初期プロセスにどのような役割を果たすか
5	5/8	第2章 外国語単語の音声と意味の連合はどのように進むのかー脳科学から探る外国語の語彙習得ー
6	5/22	<b>文の理解</b> 第3章 外国語の文理解プロセスにおいて動詞の下位範疇化情報はいかに利用されるか
7	5/29	休講
8	6/5	第4章 関係節の理解はなぜ難しいのかー外国語文理解における処理負荷の影響ー
9	6/12	第5章 外国語の文処理プロセスにおいて形態統語・意味情報はいかに利用されるかー眼球運動・事象関連電位からの検討ー
10	6/19	<b>文の産出</b> 第6章 外国語学習者の文産出：脳内にどのような統語表象をもっているか
11	6/26	第7章 外国語学習者の文産出プロセスにおいて語彙検索処理の負荷はどのように影響するか
12	7/3	<b>外国語の学習</b> 第9章 文章理解の個人差の要因とタスクの効果ー眼球測定による検討ー
13	7/10	第10章 処理の視点からみた外国語学習者の困難性ー文法操作力を高めるー 第11章 応答練習：質問に答える練習
14	7/17	第12章 外国語の産出と理解プロセスの熟達化に関わる脳内メカニズム： fMRIによる検討
15	7/24	総括：外国語運用能力の熟達化に伴う言語情報処理の自動化プロセスの解明 と今後の展望

**備 考** 授業以外にも関連学会および研究会等に積極的に参加することが望ましい（→HP 参照）。本授業は、外国語教育および第二言語習得研究の分野で研究したいと思う学生、授業実践力を支える基礎理論に関心のある人を主たる対象としている。